

## 環境福祉経済委員会視察報告書

先進地視察における調査結果について、下記のとおり報告します。

平成 29 年 3 月 2 日

光市議会議長 中村 賢道 様

環境福祉経済委員会

委員長 森戸 芳史

副委員長 萬谷 竹彦

委員 磯部 登志恵（副議長）

委員 大田 敏司

委員 岸本 隆雄

委員 木村 信秀

委員 笹井 琢

委員 西村 憲治

随 行 高木真由美（事務局）

記

- 1 研修年月日 平成 29 年 2 月 7 日（火）～9 日（木）
- 2 視察場所 兵庫県姫路市  
明石市  
芦屋市  
小野市
- 3 調査結果等 別紙のとおり

# 環境福祉経済委員会行政視察調査結果

## ○兵庫県姫路市（人口 53 万 4 千人、面積 534. 47 k m<sup>2</sup>）

1 日 時 平成 2 9 年 2 月 7 日（火） 13 : 00 ~ 14 : 45

### 2 調査概要

①姫路城の松の「こも巻き」を中止した経緯・現状について

②歴史を活かしたまちづくり（姫路城）

### 3 内 容

兵庫県姫路市は世界文化遺産・国宝姫路城で毎年行ってきた冬の風物詩「こも巻き」をやめることを決めた。松の木を害虫から守るために 1 9 6 0 年代から続けてきたが、兵庫県立大学から「効果がないどころか逆効果」と指摘を受け決断した。

こも巻きはマツクイムシなどの害虫を、わらで編んだこもに誘い込み駆除する方法。姫路城では毎年、立冬に合わせクロマツなど約 3 5 0 本に施していた。

市によると、2 0 0 2 年から姫路工業大（現兵庫県立大）が姫路城で行った調査で、駆除されるのは「（害虫を食べる）クモなどの益虫が多い」との結果が出たが、春先の「こも外し」と合わせ親しまれていることから判断を留保してきた。

しかし 2 0 1 5 年、姫路城内樹木パトロール会議会長の服部保・兵庫県立大名誉教授から「すぐやめるべき」と指摘され、中止を決めた。「風物詩がなくなることが残念だ」と当初は思っていたが、蓋を開けてみると、市民からの苦情・問い合わせは 1 件もなく、大騒ぎにはならなかった。

また、皇居をはじめ、こも巻きを中止している所も多く、このことも、こも巻き中止の一因となった。

#### 【主な質疑】

問：2002 年から 2007 年まで兵庫県立大学が姫路城で行った調査で、こも巻きは逆効果ということが実地検証で明らかになったと聞いたが、2014 年まで続けられた理由は。

答：1960 年代から冬の風物詩として、また、特にこの期間、大天守の保存修理工事期間であったため、集客対策の一つとして続けた。終了するにあたり、松本城や皇居の外苑等止めているところも多いため、我々もグランドオープンを機にやめた。ただ、一番大きな理由は、従来より、城内の樹木の管理において、指導を受けている兵庫県立大学の服部名誉教授より、こも巻きはすぐに止めなさいという助言をいただいたことである。

問：こも巻きという伝統行事を中止する際、市民からの声はいかがか。

答：新聞等にも掲載されたのだが、市民からは、電話の 1 本もなく、反響はなかった。

問：松の黒い部分があったところをきちんとするだけで、他はもう何もしていないのか。

答：他はしていない。

問：以前、こも巻きを行っていたときの予算は。

答：材料費がほとんどであるが、約70万円。



## ○兵庫県明石市（人口 29 万 4 千人、面積 49.42 k m<sup>2</sup>）

1 日 時 平成 29 年 2 月 8 日（水）10：00～12：00

### 2 調査概要

子どもへの各種支援「こどもを核としたまちづくり」の取組みについて

### 3 内 容

平成 26 年に国で「子どもの貧困対策法」が施行され、子どもが生まれ育った環境で将来が左右されることのないよう、教育や生活、経済支援など様々な対策が進んでいます。

そんな中で明石市は総合計画で「子どもの健やかな育ちで、みんなの元気を生み出す」ことをまちづくり戦略として定め、平成 23 年から子どもを核としたまちづくりを推進し、こども総合支援として様々な取組みを行っている。

結果として子育て世代が流入し人口が増加し税収も増加。地価も上昇し好循環が起こっている。

#### こども総合支援

- ・子育て支援 経済的負担を軽減

中学生までの医療費無料化（所得制限なし）、第 2 子以降の保育料無料化（所得制限なし）、公共施設利用料無料化

- ・元気を支える 子どもの健やかな育ちを支援

母子手帳交付時の妊婦全数面接、乳幼児健康診査、明石こども広場（駅前再開発ビルに新図書館が 29 年 1 月にオープン）

- ・寄り添う支援 支援が必要な子どもに必要な支援を

離婚前後の子どもへの支援（養育費取り決めや面会交流支援）、戸籍のない子どもへの支援、ひとり親家庭への支援（ひとり親交流会、就労支援）、子どもの貧困対策

- ・虐待防止 全ての子どもの命を守る体制の充実

乳幼児の全数面接、児童養護施設設置（29 年 3 月）、児童相談所設置（31 年 4 月予定）

- ・学びを支援 教育環境の充実

小学校 1 年生への 30 人学級導入、すべての小中学校にエアコン設置、中学校給食導入

- ・相談体制の充実 専門職（任期付）の採用

社会福祉士、臨床心理士、弁護士（9 名）、手話通訳士など専門職を採用し、市民相談、福祉、子育て、教育などの広い分野で活用

- ・条例制定 平成 29 年度 4 月から「明石市こども総合支援条例」施行

こどもを支援するための基本理念を定め、市、市民、保護者、学校関係者、事業者の責務を明らかにし、施策の基本事項を定め、こどもの最善の利益の実現を目指す。子どもを核としたまちづくりを後押し。

#### 【主な質疑】

問：所得制限を撤廃した際に何か意見はあったか。

答：所得制限は必要だとの意見もちろんあった。

問：心理ケアについて、ワークショップはどのような人が行っているのか。

答：FAIT(ファイト)ーJapan 研究会という東京の方の団体作ったプログラムで、臨床心理士さんや心理学を専門にされている大学の先生から成るグループがあり、こちらの臨床心理士の方にやっていただいている。

問：こども夢文庫は、子ども基金を活用されており、基金は、寄付金や出資金で賄われているとのことであるが、基金をいくら積み立てるなど、目標額等はあるか。

答：最初は、市からの出資があったが、以降は市からの支援はない。また、基金の目標などはなく、積み立てて何かを整備するものではない。

問：定住について、よいパンフレットを作成されているが、周辺市の実名が入っている。A市、B市という言い回しでやられるところが多い中、周辺市から何か言われることはないか。

答：いろいろとご意見をいただいているが、市の方針である。







## ○兵庫県芦屋市（人口 9 万 6 千人、面積 18.47 k m<sup>2</sup>）

1 日 時 平成 29 年 2 月 8 日（水） 14:00～16:00

### 2 調査概要

市立芦屋病院における「院内開業医制度」の取組みについて

### 3 内 容

阪神・淡路大震災等による市財政の破綻危機（震災前と比較し 6 倍の 1200 億円に増加）により、病院への一般会計繰出金が年間約 4 億円削減。これにより経営改善が急務となり、様々な病院経営改善を実施した中の方法の一つとして平成 18 年から院内開業方式がとられた。

病院の赤字部門である泌尿器科、耳鼻咽喉科、歯科を院内開業の対象とし公募。実施に当たっては開業医が集まった「医療モール」をイメージしてスタート。医療法の関係で、病院の出入口とは別に院内開業の出入口を作り、病院施設の一角で診療という形になっている。

医療法上の対策について、12 条（開設者の管理等）と 20 条（清潔保持等）で兵庫県等と協議。病院の開設者は基本的に院内開業のフロアを管理する必要がありますが、院内開業の開設者である診療所の医師が管理するという事で整理。清潔保持については、病院と院内開業を間仕切りで完全独立させた形で認可された。

院内開業のメリットについては、院内開業医が病院 MRI や CT 等の高度医療機器が利用可能で臨床検査や手術室も利用できることが大きなメリット。病院のメリットとしては、赤字部門の診療科や機能をなくすことなく、院内開業医からの家賃等の収入を得ることもでき、約 1 億 5 千万円の経営効果があった。

#### 【主な質疑】

質：院内開業医の募集をかけられて、医師は、市内か若しくは県外の方か。

答：歯科は、大阪の大病院の勤務医であったが、子どもの教育もあり、開業を考えたとのこと。

質：院内開業にあたり、院内の設備に対する融資制度はあるのか。

答：病院は、箱までは作るが、それ以外の新たな設備については、開業医の方が、銀行などの融資により、設置されている。なお、いわゆる頭金のような敷金等がなく、テナント料を払うだけであり、開業医の方の負担は減っていると考えている。

質：院内開業医制度のメリットは。

答：診療所側は、ハード面を整えた上で募集するため、初期投資が少なくすむこと。病院側は、総合病院としての形を保持できること。患者さん（市民）側は、あちこち回らなくても一箇所で受診できること。これが形上実現できたことがメリットである。







## ○兵庫県小野市（人口4万9千人、面積92.94k㎡）

1 日 時 平成29年2月9日（木） 10:30～12:00

### 2 調査概要

公共交通網の整備における「地域公共交通網形成計画」について

### 3 内 容

人口減少やモータリゼーションの進展によって公共交通の利用者は年々、減少傾向にあり、バスや鉄道などの路線廃止や減便や駅廃止などによるサービスの低下が全国各地でみられている。

特に地方部においては、民間交通事業者の経営が成り立たなくなり、従来どおりの輸送サービスが提供できない地域が、都市部に比べ増加しており、大きな課題となっている現状がある。

小野市においても、今後見込まれる人口減少に伴い、公共交通を取り巻く環境は厳しい状況にあることから、高齢者や子どもなどの交通弱者の移動手段を確保することにより、活力に満ちた快適で安心できるまちを維持していく必要があると考え、いち早く、平成16年に市内を循環するコミュニティバス「らんらんバス」の運行を開始し、さらに平成22年3月には、コミュニティバスを中心とした小野市の公共交通のあり方を示した「小野市地域公共交通総合連携計画」を作成し、地域の実態に適した利用しやすく、需要創出型の交通ネットワークの構築に取り組んだ。

その後、法改正により、「地域公共交通総合連携計画」から、新たに「地域公共交通網形成計画」が法定計画となり、これを受けて、小野市においても、JR加古川線、神戸電鉄粟生線、北条鉄道の鉄道3路線、神姫バスが運行する路線バス、コミュニティバス、タクシーなどの市内公共交通全体を見渡した「小野市地域公共交通網形成計画」を策定することとなった。

計画の区域は小野市全域、対象としては鉄道・路線バス・コミュニティバス・デマンドバス・タクシー、期間は平成27年12月～平成33年3月としている。

#### 【主な質疑】

質：らんらんバスの運行に対しての市の支出額と、乗車運賃の100円の収入はバス会社の収入か市の収入か。

答：本年度ベースで、1億円近い支出額であり、バス会社の収入となる。

質：地域公共交通網形成計画を27年度に作られていますか、市単独でやられたのか、それとも補助金が付いたのか。

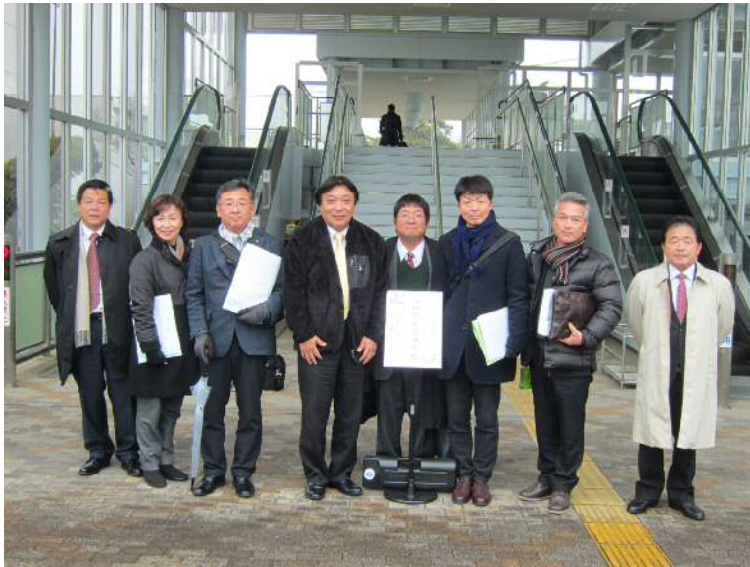
答：100%国庫補助金である。

質：デマンドバスにおいて、タクシー会社との競合はないのか。

答：人数の制約（タクシー乗車人数以上）があり、家の前までの送迎はないなどの制約があり、競合はない。







175の駅の情報 路線別

小野市コミュニティバス通過予定時刻表

ルート	1	2	10	6	4	5	10	ルート	3	4	5	6	7	8	9	
ルート名	北循環	南循環	中谷	山田	島山	西野	野池	中谷	ルート	河合	岩谷	西野	池田	山田	大野	下野
行先	北野	野池	野池	野池	野池	野池	野池	北野	河合	岩谷	西野	池田	山田	大野	下野	野池
運行曜日	毎日	月～土	月～土	月～土	月～土	月～土	月～土	毎日	月～土	月～土	月～土	月～土	月～土	月～土	月～土	月～土
8					55	59		8								
9							65	9								
10								10								
11	27	02	20					11								
12								12	33	40	37	22	51	55		28
13	23							13								
14		31					31	14								
15					45			15								
16		22						16								
17								17	41	39	28	17	27	31	31	31
18								18								

※ 本バスは、12月1日より、12月31日まで運行予定です。12月31日は、12月30日の時刻表と同様に運行いたします。12月31日の時刻表は、本バスセンターに貼付しております。また、本バスセンターに貼付しております時刻表は、本バスセンターのホームページにも掲載しております。詳しくは、本バスセンターにお問い合わせください。



## <委員所感>

### 所 感 (森戸 芳史)

#### <姫路市 こもまき>

光市でも風物詩という意味だけなら見直しが必要。

#### <明石市 子どもを核としたまちづくり>

衆議院議員、弁護士出身の泉市長と意見交換。こどもに寄り添う政策は人権派の弁護士としての活動の中から出てきたもの。財源づくりはこどもの政策財源を最初に確保することにある。20から30代の子育て世代をターゲットにした結果、人口が増加。光市でもターゲットを明確にしたマーケティングが必要。弁護士も報酬だけでなくやりがいを求めている人材はたくさんいる。光市でも検討が必要。子どもを最初に考えることがまちの発展と活性化につながっている。子どもを中心とした総合的な支援策と条例化の必要性を痛感。

#### <市立芦屋病院>

病院開設以来ほぼ赤字が続き 27 年度でも約 3.7 億円の赤字で院内開業に持っていかなざるをえなかった。芦屋病院の全てをこの方式に出来るともいえる。考え方としては理解できるがそもそも、高級住宅街の芦屋市という立地と求められる病院サービスのミスマッチが起こっているのではないだろうか。

#### <小野市>

地域のバス交通会社が 1 社しかなくきめ細かい小型バス運行が可能なのが強み。複数あると権利調整が難しい。さらに予約型のワンボックスカーが導入され、きめ細かいサービスが提供されている。市内にある 11 の鉄道駅のうち 5 駅を市がコミュニティ施設に改装しレストランなどを誘致して賑わいを作り出している点が参考になった。

### 所 感 (萬谷 竹彦)

#### <姫路市：姫路城の松の「こも巻き」を中止にした経緯・現状について>

光市も小学生の体験として、こも巻きを行っています。このことから、どのような経緯を経て、中止になったのかが大変興味がありました。最終決断は大学の教授の一言。7年間の調査の結果、害虫駆除どころか益虫を駆除していることが判明したそうです。

姫路市としては、冬の風物詩として存続も考えていましたが、中止になってからの苦情等は一切なかったと聞き驚きました。小学生の体験と言う意味でのこも巻きは簡単には中止に出来ないと思っています。光市でも調査研究が必要だと感じました。

#### <明石市：子供への各種支援等「子どもを核としたまちづくり」について>

明石市の泉房穂市長が、冒頭の意見交換に出席して下さいました。とても熱い人物で、こちらが圧倒されてしまいました。離婚届をもらいに来た方に、子どもの養育費に関する合意書も一緒に渡すなど、施策も独特な物が多く、とても興味がそそられました。「子育てするならやっぱり明石」を胸に、各種施策を整え、事実選ばれている



現状は、すばらしいと思えました。市広報も工夫を凝らし、読みやすいようになっていました。

近隣市の住民にも積極的なPRを行っていて、近隣市との関係悪化につながらないかという心配も少し感じました。しかし、その積極さが功を奏していると思えます。光市でも、どの施策が現実可能か精査し、実行に移していければと思います。

<芦屋市：市立芦屋病院における「院内開業医制度」について>

阪神・淡路大震災からの復旧・復興事業のために借り入れた市債の償還負担により危機的な財政状況になり、平成16年1月に「今後の市立芦屋病院あり方検討委員会」を設置しました。同年4月に総合病院としての機能を維持したい一方で、あらゆる診療科を標榜しても採算ラインへの到達が難しいとして、診療所の医師に病院の一部を開放する、院内開業方式の採用が提案されました。

現在は、泌尿器科・歯科口腔外科が開業しています。メリットとしては、開業医の初期投資が少なくすむ、総合病院としての形をとれる、患者さんの利便性などがあります。その上で、様々な細かい取り決めを結ばなくてはならず、また、入口は別などの規制もあります。はたして、光市立の病院にも受け入れられるものかどうかと考えたところ、一筋縄ではいかないなと感じました。

しかしながら、医師不足の昨今、一つの方法として調査研究してみる必要はあると感じています。

<小野市：公共交通網の整備における「地域公共交通網形成計画」について>

小野市は短距離移動も含めて自動車の分担率の高い市であり、クルマ移動制約者（免許、自動車を持っていない）には、極めて移動しづらい現状があります。

交通空白地域も多く、らんらんバスというコミュニティバスを運行し、その解消に努めています。

また小型ワゴン車の導入も行い、幅員が狭い道路での運行を行うなど、様々な取り組みが参考になりました。光市でも取り入れることが出来ると思ったものもありました。

予算との兼ね合いもありますが、しっかり取り組み、提案していきたいと思えます。

## 所 感（磯部 登志恵）

姫路城のこも巻きは、光市と同様冬の風物詩として行われていたが、焼却時に益虫55%害虫4%という結果で逆効果という指摘により中止された。70万円の予算は、城内の植栽維持管理に使うべきとの助言もあり、現在は松のみならず桜の管理に活用されている。光市も、環境教育の視点を松葉清掃などに切り替え、樹幹注入などの予算にすべきと考える。

明石市のこどもを核とした取組は、弁護士等の専門家を職員として雇用し、様々な相談に対し深く丁寧な支援として進められている。光市では、子ども相談センター「きゅっと」を総合的な相談体制として強化しているが、特に離婚相談が増えている中、内容を精査し、ひとり親になることへの不安を払拭できるような支援として、専門家との連携などに力を入れることが必要と感じる。さらに職員の意識改革にも、評価制度を通して、目に見える形でやる気を出させることは参考にするべきと考える。

市立芦屋病院の院内開業医制度については、採算性のない診療科目について民間にシフトするという考えに基づき募集されている。開業医にとっては初期投資が小さく、市立病院としては総合病院として確立できるというメリットはある。市民も様々な医療機関に行かなくて済むということにも繋がるが、医師会・歯科医師会などとの連携については、今後の地域包括ケアシステムを構築するにあたり、光市では課題が大きいと感じた。

小野市の公共交通網については、1億の委託事業として民間に運営を任せ、100円の運賃も事業者収益としている。市民の利用は年々増加し、効果的な事業となっている。バスの拠点として各地域のコミュニティの場を作っていることや、コンパクトな車両を活用することは参考となるが、光市では各地域の状況が異なるので、民間事業者と並行して地域の方が運営に関われる（民間では不採算となる隙間的な部分を担う）議論が必要と感じた。

## 所 感 (大田 敏司)

姫路市では、冬季の間に松の幹に藁こもを巻き春先に取り除くことで、松の害虫を防ぐという、昔からの風習である、「藁こも巻き」を取りやめにしている実態を視察しました。

「藁こも巻き」は害虫駆除という目的で巻かれていたが、大学教授のあまり効果がないという指摘で、取りやめになりました。光市も光の海岸の松に「こも巻き」を実施していますが。古くからの風習であり、光市の海岸を彩る風物詩の一つであるので考えさせられました。

明石市では、市長の強い思いで、子どもの医療費無料を実施されている実態を視察しました。

義務教育中の子ども医療費完全無料化を実施したおかげで、子育て中の家庭が明石市に引っ越しをされておられるとのことでした。

光市も今年度、義務教育を終えるまで無料化を実施されます。その効果が表れ、子育て中の家庭が、光市に移住されることを願っております。

芦屋市に於いては、市立芦屋病院で院内開設療所を新設されておられる、実態を視察しました。

病院内で「今後の市立芦屋病院あり方検討委員会」を設置され、「院内開業方式」を採用されました。募集をかけましたところ、1年以内に口腔歯科と、泌尿器科の2診療所は開設されておりました。

病院当局の強い願い、思い、行動力が2診療所を誘致したのだと思いました。

光市も頑張っておられるので、院外診療所が早く開設できると願っております。

小野市では、市内全域をめぐる、「地域公共交通網形成計画」を視察しました。市内には「コミュニティバス」の幹線道路と地域を回る「らんらんバス」また、市内の空白区域を回る「デマンドバス」という仕組みで、ほとんど市内全域を網羅しておりました。料金は大人100円こども50円との設定でした。

光市でも参考になると思いますので是非、生かしていきたいと思います。

## 所 感 (岸本 隆雄)

<姫路市 姫路城の松の「こも巻き」>

初めての国宝姫路城、大きさと美しさに感動しました。「こも巻き」はしない方がよいとのことですから、光市も来年からは中止にした方がいいと思います。

それよりは、古い桜の木が気になりました。病気になった枝を剪定している為、木が小さく見え痛々しい姿でした。土壌を掘り起こし、土を変えれば元気になるそうですが、国宝の為、30cm以上はいらえないそうです。残念！

<明石市 こどもを核としたまちづくり>

行政視察で市長が挨拶されることは希だそうです。お忙しい中、三十分のスピーチをいただき恐縮いたしました。

市長の熱い市政への思い、子供への思いをひしひしと感じ入りました。この世に生まれたからには、どの子もすべて平等、平等に安心して生活でき、教育も受けられる。まさに理想とする社会、きっと明石は人口も増加し、経済的にも豊かな街へと発展すると思います。

<芦屋市 院内開業医制度>

高級住宅地にある市立芦屋病院。ワンランク上のリッチな病院という感じを受けました。

大都会の近くにある病院でも、医師不足の問題、経営の問題をかかえ、苦肉の策としての院内病院、日本の医療制度の実態が浮かびあがる病院だと思います。

これからの病院運営は、関係者だけの問題ではなく、市民、議員、行政、全員で我々の病院は我々で守るという考え方が必要です。

<小野市 地域公共交通網形成計画>

山間部にある面積の広いまちですので、必要なことと思います。

デマンドバスを運行するに当たって、何回も市民の声を聞く会議を開催したことが、成功した原因だと思います。

また、運行してからも、市民の意見を聞く会議をもっていることが、市民から愛され、利用者も増え、喜ばれている公共交通機関だと思います。

課題は、大きな予算が必要となってしまうことです。

## 所 感 (木村 信秀)

<明石市>

少子化、人口減少時代にある現在、「世代を超えて住みたい、住み続けたいまち明石へ」をスローガンに近隣市との行政サービスの差異により好循環と三つのV字回復として、「サービスの向上」が「人口増」を招き「税収増」へとつながるサイクルを見出している。

施策のポイントとして、1、市民に最も近いところでニーズに合った施策の展開 2、二つの大きな柱で施策の展開 3、国の応援も受けています としている。

この二番目の展開において、こどもを核としたまちづくりに特に重点を置いていることが覗かれた。

未来を担う子どもを安心して産み・育てられるまちになるよう、子育て世代の負担を軽減し、育ちや学びをしっかりとサポートするために、予算を大胆にシフトし、まちの元気や活力につなげていることに感心させられた。

先ず、平成25年度に所得制限なしに、中学生までの子ども医療費の無料化、平成26年度は、離婚後の子ども養育支援施策スタート、平成28年度は、関西初に第二子以降の保育料を所得制限なしに完全無料化を実施し、小学一年生30人学級を県内初に導入等様々な取り組みをしている。

このことを近隣市の企業に直接アピールし、勤めるのは市外でも暮らすのは明石市にと市長自ら宣伝し、都市間競争に発展している感がある。この点に関して若干異論はあるものの、行政サービスの方向性と大胆な予算措置を含む施策は一考させられた。

光市に於いても集中と選択の時代にあった施策展開の具現化を要望していきたい。  
<市立芦屋病院>

芦屋病院において、院内での診療所の開設について、詳細にわたり説明をいただいた後、見学をさせていただいた。

院内でのメリットとして、医療資源の共有が可能ということと、開院時における初期投資の軽減化がはかれるとお聞きした。また、病院側としては、総合病院の保持という利点があり、市民サービスにつながることを考えられた。

しかし、市内には多くの開業医があり、医師会との連携が大切であることも考えなくてはならない旨、お聞きした。光市に於いても、大和地区での院外診療所の開設がいち早く実現できるよう参考としたい。

<小野市>

公共交通網の整備における「地域公共交通網形成計画」にいち早く取り組んでおられる実情の説明を受け、光市に於ける形成計画に対し、参考としたい。

## 所 感 (笹井 琢)

### 【姫路城：松のこも巻き中止】

光市においても試験的にこも巻きを一部中止し、松の生育状態を比較分析するとよい。姫路城から姫路駅の間を徒歩移動したが、姫路城を模したかのような駅前地下広場や一般車両を通行禁止とした駅前広場など、石見利勝市長の都市計画におけるこだわりが感じられる。

### 【明石市：子どもへの各種支援等】

子ども医療費の無料化制度について、対象世帯の所得制限を設けていない。「子どもに分け隔てはない」という泉房穂市長の信念ではあるが、財政のばらまきとなる危険がある。(なお、基金残高はH21年の69億円からH28年に86億円へと着実に増加している)

子育て世代を他市から呼び込むための努力はすばらしく、隣接他市との子育て制度の比較をパンフレットに実名で掲載している。当然ながら他市との軋轢があるようだが、都市間競争の中で魅力ある政策を明示することは重要である。無戸籍者への支援制度は、私としても理解不足の分野であり、良い勉強の場となった。

### 【芦屋市立病院：院内開業医制度】

市立病院時代に不採算部門であった歯科や泌尿器科を診療科として廃止し、施設を整備した上で開業医の出店を求めた珍しい方式。開業医の経営下では黒字を確保している。耳鼻咽喉科については出店希望がなく、現在も募集を継続している。緩和ケア病棟の担当医師は2名だが、緩和ケア専門の大学医局はないので、後継医師の安定的な確保には困難が予想される。医師不足は何処の地域でも切実な問題と感じた。

#### 【小野市：地域公共交通網形成計画】

らんらんバスは市から神姫バスへ1億円で運行を委託している。利用料100円は神姫バスの収入となる。地図上では殆どの市域をカバーしているが、エリアによっては2日に1便の路線もあり、最低限の移動手段確保という意味合いのようだ。平成22年にイオン小野店内にバスターミナルを設置し利用者を増加させた一方、市内鉄道の乗降客は減少しており廃線の危機を迎えている。

平成27年度に地域公共交通網形成計画を250万円（国庫補助100%）で作成している。他市でも補助事業を導入して交通実態調査を実施した事例があるが、光市は財源確保についてどれだけ努力しているか、注視が必要である。

### 所 感（西村 憲治）

<姫路市「こもまき廃止」>

こもまきは、益虫を殺し害虫を殺すことに効果なしと兵庫県立大学 服部教授の意見を取り入れ2014年に取りやめ、年間70万円の費用の削減になり、以後松枯れ被害なし。

自然に任せることが大切で、松くい虫防除していない。やめたことで市民の反応なし。すでに皇居の松もこもまきを取りやめている。

光も取り組んでみたらいかが？

<明石市 「子供への各種支援」>

名物市長「泉」さんのパフォーマンスに、まずびっくり。施策の中心は子供に対するあらゆる支援を本気ですれば、町の人口増（30万人近づく）、財政力（固定資産税の増加）アップにつながる。

職員に9人の弁護士（各種専門資格者）を全国公募し、専門性を持たせることで市民サービスを向上させている。資格給はなく、人事評価で±50万円の差をつけ、人事権を発揮し役職級の若返りを実現し、組織を束ねている。

市長が交代したらどうなるのだろう

駅南再開発（ダイエイ跡地を核に）が成功し、町の玄関口は、様相が一変。

魚の棚は相変わらず。

<芦屋市「院内開業医制度」>

不採算部門「歯科・耳鼻咽喉科・泌尿器科」を民間への発想から、賃貸し財政支援を目指す。現在、2つの民間診療所が開業し、年間560万円の賃料収入がある。耳鼻咽喉科は現在も募集中。

条件的には、賃料が近隣に比べ安いこと（医師会の入会金は500万円）、市立病院内の機械設備が利用できることや医師の連携ができること。両診療所は自由診療でかなりの収益を出しているのだから、継続して契約を希望中。



施設を完全に分離することが、物理的に要求されるが、やる気の問題と感じました。

<小野市「地域公共交通網形成計画」>

視察時間 1 時間半の内 1 時間 20 分の丁寧な説明を頂きました。

「らんらんバス」はいわゆる巡回型バスで、福祉バスの側面から利用料は 100 円(65 歳以上と小学生以下は無料) 平成 15 年からの運航で、平成 27 年は 128,043 人の利用がある。

運行は神姫バスで、利用料金を差し引いた 1 億円を小野市が負担している。

運航ルートは、毎年自治会長など 80 名で構成する協議会できめ細やかに変更している。

路線バスの側面からデマンド型も 6 名からが最小運航人数になり、やや不便である。